

土の子の学力向上プラン

【第5次総合計画】基本施策G1 長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます。 G1－1 「確かな学力」の向上を図ります。
G1－2 健やかな心と体を育成します。 G1－3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実を図ります。

【学校教育目標】 「よく学び いつも元気で やる気いっぱい」の土の子の育成

【めざす子ども像】 よさを認め学び合う子 命を大切にする子 「やってみよう」とチャレンジする子

【研究主題】 「すすんで学ぶ土の子の育成」 ～ 児童全員を自立した学習者とするために ～

《 土の子の課題（6年生全国学力学習調査の結果から）と目標数値 》												
【国語科】「知識及び技能」に課題が見られる。 △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。 △学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。 △文の中における主語と述語との関係をとらえることができる。 △記述式の問題に比べ、短答式での誤答が多い。			目標数値	【算数科】「図形」と「変化と関係」領域で課題が見られる。 △球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる。 △角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する。 △速さの意味について理解している。 △折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件にあてはまることを言葉と数を用いて記述する。	目標数値							
			正答率 81%		正答率 31%							
			正答率 25%		正答率 63%							
			正答率 62%		正答率 40%							
		正答率 47%			正答率 37%							
基礎基本の徹底 ○基礎基本の定着を図る ○家庭学習の定着 ○スキルアップタイムでのコグトレ			思考力・表現力等の育成 ○授業改善 ・「学び合い」活動の充実 ・考えを書く時間の確保 ・めあての焦点化、明確化 ・振り返り活動の充実		学習意欲の向上 ○分かる授業の研究 ○自ら学ぶ態度の育成 ○スキルアップタイムを活用した学びの土台作り（コグトレ・詩への挑戦等） ○授業の準備物の置き方の統一		家庭学習の充実 ○家庭学習の時間の確保 ・ＩＣＴ教育機器の有効な活用 ・自主学習の奨励 ○家庭学習の定着と家庭への啓発 ・家庭学習強化月間の設定		教師の指導力向上 ○校内研究の充実 ・あじさいスタンダードの活用 ・「学び合い」活動の充実 ・ＩＣＴ教育の充実		指導体制の充実 ○校内指導体制の工夫（ＴＴ等） ○人権教育を基盤とした教育活動（学級経営） ○特別支援教育の充実（ＵＤ）	
学年の課題(国語科・算数科)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生	
	・平仮名、片仮名、漢字の習得が不十分である。 ・促音、拗音、長音など、正確に読めなかったり書けなかったりすることがある。 ・設問の内容を正しく読み取る力が十分ではない。 ・話を聞くことが十分にできていない。理解できていない。 ・文章問題に示されている内容を正しく読み取ることが苦手である。 ・計算問題に時間がかかる。 ・学習の流れがスムーズに捉えられていない。 ・計算ミスが多い。		・助詞の理解が不十分であり、まとまりのある文を書くことが苦手である。 ・設問の内容を正しく読み取る力が十分でない。 ・話を正しく聞き取ることが苦手である。 ・文章問題の理解が不十分である。 ・長さ、水のかさなど、量の理解が不十分である。 ・繰り上がりや繰り下がりのある計算ができない児童が多い。		・漢字、片仮名の習得が不十分である。 ・助詞の理解が不十分であり、まとまりのある文を書くことが苦手である。 ・設問の内容を正しく読み取る力が十分でない。 ・文章問題の理解が不十分である。 ・時刻の読み取りや時間の計算の理解が不十分である。 ・九九を全て覚えていない児童が多い。		・漢字の習得が不十分で、文や文章の中で使うことができない。 ・伝えたいことを明確にして、筋道を立てて書いたり、話したりすることに課題がある。 ・語彙が乏しいため、文章全体の構成や内容の大体を理解することが苦手である。 ・四則計算に時間がかかり、間違いが多い。 ・文章問題で数量関係を捉えて立式することが難しく、思考を伴う問題に苦手意識がある。 ・言葉や図、式を用いて考え、説明することが不十分である。		・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題がある。 ・相手に伝わるように、理由や事例を挙げることに課題がある。 ・既習内容の漢字が定着しておらず、語彙も乏しいため、文章全体の構成や内容の大体を理解することが苦手である。 ・平行な直線の性質など、図形の性質への理解が低い。 ・コンパスや分度器など、道具を適切に使うことが苦手である。 ・分配法則を使って、簡単に計算する工夫ができていない。 ・数量の関係について、図を用いて表現することができていない。		・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題がある。 ・相手に伝わるように、理由や事例を挙げることに課題がある。 ・書くことに対して苦手意識があり、条件に合わせて書くことができない。 ・平行な直線の性質など、図形の性質への理解が低い。 ・コンパスや分度器など、道具を適切に使うことが苦手である。 ・分配法則を使って、簡単に計算する工夫ができていない。 ・数量の関係について、図を用いて表現することができていない。	
改善策(国語科・算数科)	グループでの認め合いや教え合いの場面を仕組み、共に学ぶ良さに気付かせる。				学び合う時間を仕組み、子どもが主体的に学びに向かう意識付けを行う。				学び合う時間を充実させ、子どもたちの主体的な学びの質を向上させる。			
	家庭学習の習慣付けを行う。				家庭学習の定着と共に、自主的な学習に取り組む習慣付けを行う。				家庭学習の質の向上と、自身の課題に応じて計画を立てて自主学習に取り組むことができるようにする。			
	・視写、聴写に取り組ませ、正しく文字を書けるようにする。 ・音読・読書に毎日取り組ませる。 ・設問に合った答え方を身に付けるために、練習プリントに定期的に取り組み、解説を行う。同じプリントを繰り返し用いて、達成感を味わわせる。		・音読、読書に取り組ませる。 ・書く活動において、自分で推敲させた後、助詞等の使い方について指導する。 ・プリントやテストにおいて設問に合った答え方をしているかを丁寧に指導する。 ・感想を書くことで、自分の考えを文で表現する力を付ける。		・音読、読書、視写に取り組ませる。 ・小テストを繰り返し行い、漢字の定着を図る。 ・感想を書く機会を増やすことで、感想を文章にする力を付ける。		・漢字の小テストや意味調べを定期的に行い、言語への興味・関心を高める。 ・音読や読書、視写を通して文字に慣れ親しませて語彙を豊かにする。 ・書く活動で、構成を考え、内容の中心を明確にして書くことを意識させる。		・教師の発問に対して、教科書の本文を根拠に発言させる。 ・文章をお互いに推敲させ、説得力をもたせるためにはどうすればよいか考えさせる。 ・型を示したり、書き出しの言葉を統一したりして、「書くこと」への抵抗感を減らす。 ・家庭学習において、既習内容を含めた漢字や熟語に関する内容を取り入れるなど、書く場面を多く設定し、「書くこと」への抵抗感を減らす。		・教師の発問に対して、教科書の本文を根拠に発言させる。 ・文章をお互いに推敲させ、説得力をもたせるためにはどうすればよいか考えさせる。 ・型を示したり、書き出しの言葉を統一したりして、「書くこと」への抵抗感を減らす。 ・家庭学習において、手紙や絵日記を書く活動を取り入れるなど、書く場面を多く設定し、「書くこと」への抵抗感を減らす。	
	・文章問題では、キーワードに着目させ、正しく立式することができるように、定期的に文章問題のプリントに取り組ませる。 ・計算問題に取り組ませる。 ・具体物や半具体物を用いて、理解を促す。 ・回答に対する見直しをその都度行わせる。		・定期的に計算問題や文章問題のプリントに取り組ませる。 ・具体物を用いて理解を促す。 ・長さ・測定など、他教科ともつなげ、量感覚を身に付ける。 ・教科書の復習問題に取り組む授業で丁寧に指導する。		・文章問題を図などに表し、題意を理解させたうえで立式させる。 ・定期的に計算問題や文章問題のプリントに取り組ませる。 ・ＡＩ型ドリル教材を用いて、２・３年両学年の復習を促す。		・家庭学習で出題内容の工夫やＡＩ型ドリル教材の活用を行い、正確に計算する力を身に付ける。 ・文章問題で印を付けて数量関係に着目し、図に表すことで見通しをもって課題解決する力を高める。 ・立式の理由を書いたり説明したりする機会を増やし、型を提示しながら指導する。		・図形についての教室掲示を行い、常に既習事項を復習できる環境づくりを行う。 ・ＡＩ型ドリル教材だけでなく、プリントでの学習を行わせ、コンパスや分度器を使う機会を増やし、適切な使い方を習得させる。 ・数量の関係に着目し、計算のきまりを用いることで、速く計算ができる有用性を感じさせる。 ・授業中に数直線を描く機会を多く設定する。		・図形についての教室掲示を行い、常に既習事項を復習できる環境づくりを行う。 ・ＡＩ型ドリル教材だけでなく、プリントでの学習を行わせ、コンパスや分度器を使う機会を増やし、適切な使い方を習得させる。 ・数量の関係に着目し、計算のきまりを用いることで、速く計算ができる有用性を感じさせる。 ・授業中に数直線を描く機会を多く設定する。	

☆学校☆

○学習環境の整備 ○学習規律の定着 ○学校図書館司書との連携
○学力調査の実施・分析・改善策 ○あじさいスタンダードを活用した授業改善

☆家庭☆

○基本的な生活習慣づくり（早寝、早起き、朝ご飯）
○家庭学習（宿題・自主学習）の定着

☆地域☆

○幼保小連携、小中連携、その他関係機関との連携 ○地域行事への参加 ○
地域人材の活用 ○学力向上サポーターの活用 ○放課後子ども教室との連携